

新春の御挨拶

大日本武徳会
総裁
東伏見慈晃

平成二十七年度の新春を、会員の皆様、お健やかに目出度くお迎えのことお慶び申し上げます。

平成二十六年会報武徳秋季号では、父慈治前総裁の追悼事業と特集の記事をご編集賜り、役員諸先生方、全国の会員の皆様に対し厚く御礼申し上げます。

特に平成二十六年四月二十九日の第五十二回全国武徳祭は、総裁追悼大会と冠して、盛大に開催していただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

本会から団体最優秀賞が設けられ大阪の日本古武道直心会様が第一回の栄えある賞に輝かれました。今後この団体賞獲得を目指し、各会の皆様が一層修練を重ねられますことを祈念いたします。

本年は大日本武徳会創立百二十周年、戦後七十周年の節目の年となり、アメリカ支部におかれましては、五十周年の記念事業とアメリカ武徳祭が盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

戦後間もなく渡米された濱田鉄心先生は、幾多の難関を突破され、当初数名の大学生から始まって、現在世界四十五ヶ国六千人以上の会員が国際部組織の中で活躍するまでの大発展に導かれました。

その指導力と大日本武徳会の武道を世界にとの情熱に敬服いたします。

私事ながら、私も昨年は、私にとり記念すべき年となりました。

東山、將軍塚に青龍殿を落慶することが出来ました。

旧大日本武徳会京都支部道場が京都府の管理下にあり、雨漏りから手当が遅れ大修理の予算がなく廃棄処分となったものを、何とか保存しようとして立ち上がりました。五年十一ヶ月に及ぶ対京都府、京都市との許認可交渉を勝ち抜き、十ヶ月の僅かな工期で完成に漕ぎ着けました。

戦前の大日本武徳会の道場が瓦礫の屑になることに、私は最後の総裁を務めた祖父の悲しみ、当時の大日本武徳会の関係諸兄の嘆きの深さに思いを馳せ、何としても保存しようと決心しました。

資金的にも極めて難関でありましたが、多くの方々のご援助をいただき実現することができました。誠にありがとうございました。

目標が高ければ高いほど、それ以上に志を高く掲げることが、物事を成就に導いて頂けると思います。それは人の力を越えた仏様の力に委ねることであります。

青龍殿の道場で、大日本武徳会の精神を引き継いだ皆様の、そして日本の武道を導いていく武道の神髄を、遺憾なく発揮して頂くことを強く願います。

本年は大日本武徳会創立百二十周年の節目の年にあたり、大日本武徳会が、日本武道の本流として、名実ともに指導的役割を果たせる会となるよう、その第一歩を力強く踏み出す年となりますことを祈念し、ご挨拶と致します。